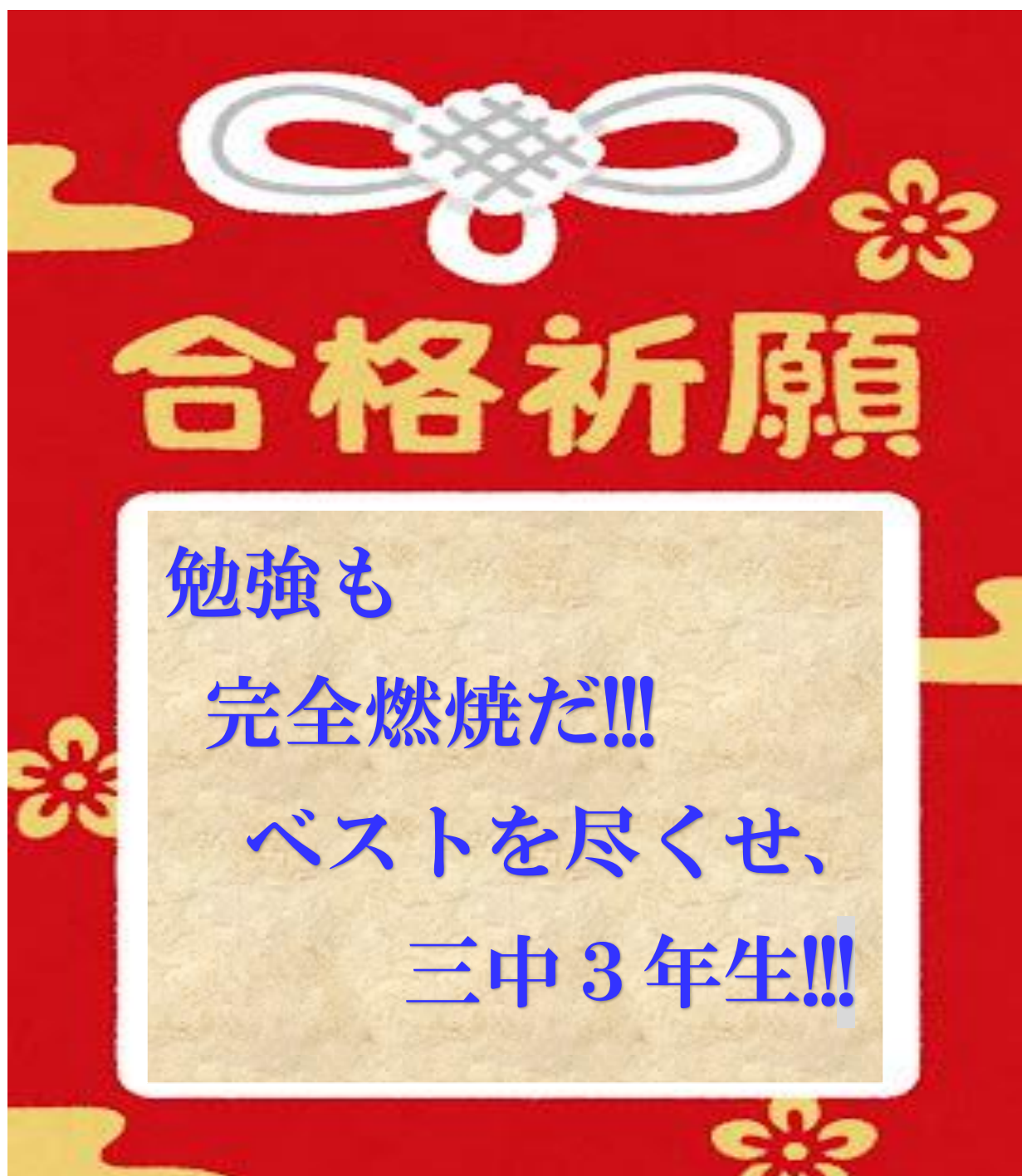


令和8年度

進路の手引き

第1回進路説明会



小平市立小平第三中学校

3年 組 番 氏名

目次

1	はじめに	…	P 1
2	進路を選択するにあたって	…	P 2
3	進路決定までの主な予定	…	P 3
4	中学校卒業後の主な進路	…	P 4
5	卒業生の主な進学先	…	P 5
6	評定について	…	P 6
7	都立高校の入試について	…	P 7
8	私立高校の入試について	…	P 1 1
9	都立高校インターネット出願について	…	P 1 3
1 0	推薦について	…	P 1 4
1 1	奨学金制度について	…	P 1 5
1 2	高校訪問について	…	P 1 6
1 3	保護者の方へのお願い	…	P 1 7

モチベーションがあがる名言

- 努力だ 勉強だ それが天才だ 誰よりも三倍 四倍 五倍 勉強する者 それが天才だ
(野口 英世)
- どんなに勉強し、勤勉であっても、上手くいかないこともある。これは機がまだ熟していないからであり、ますます自らを鼓舞して耐えなければならない。(渋沢 栄一)
- 何の志も無きところにぐずぐずして日を送るは、実に大馬鹿者なり(坂本龍馬)
- 小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道(イチロー)
- 世の中はなにかほしいと思ったら、そのためにそれなりの努力をしないとイケない。
(ドラえもん)
- 夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だ(クレヨンしんちゃん 野原 ひろし)
- 限界を決めるのは自分だ!! (第3学年主任 牧口 哲孝)

【1】はじめに

運動会では3年生の素晴らしいところが色々なところで見られ、大成功で終わりました。学年目標である「完全燃焼」をこの運動会でまずは果たすことができました。後輩たちは、今年の3年生の姿を忘れることなく、来年の運動会をよりよいものにしてくれることでしょう。これから3年生は修学旅行や音楽祭の準備を進める時期になります。勉強もしていかないとはいけません。運動会と同じように一つ一つのことに全力で取り組み、すべての面において「完全燃焼」していきましょう。

さて、いよいよ皆さんにとって大きな試練である進路について真剣に考える時期を迎えました。「進路」というと多くの方が高等学校への進学を考えます。しかしながら、将来について自分が進むべき方向のすべてが「進路」になります。これからの長い人生を見据えて、「将来どのようなことをしたいのか」「自分の特性を活かすにはどうすればよいのだろうか」などといったことも考えながら進路を考える必要があります。早いもので中学校を卒業するまであと9か月ほどになりました。9か月後の自分を想像してみてください。自分の進路が決定して、希望をもって卒業式を迎えることが最高なことであり、そのような状況にできるようにするために先生たちも全力でサポートをしていきます。そして10か月後には、自分が選んだ道で充実した日々を過ごしていることを何よりも願っています。そのためにもこれからの時間を有効に活用して、進路選択を決して人任せにせず、自分自身で真剣に考えていくことが非常に重要です。

残念ながら現在でも高校中途退学者が多くいます。教え子に話を聞いたりすると、「高校生活が面白くなかった」「想像していたものと違って悲しかった」というような声をよく耳にします。いったいその原因は何でしょうか。「高校に入学することだけ」が目標だったのでしょうか。それとも「進学先の高校の説明会に参加をしなかった」ことなのでしょうか。いずれにせよ、中学校の時の進路選択について何かしらの課題があったのかもしれませんが。このようなことがないようにするためにも、進路について主体的に考えることがやはり大切で、「誰かに言われたから」という理由だけで進路を決定するのはできる限り避けるべきことです。

今、皆さんを見てみると、しっかりと目標をもって努力をしており、授業に取り組む姿勢もよくなっています。反対に、努力が足りない人や不安定な気持ちでいる人もいます。誰であれ、悩むことも多くなってくるでしょう。それはごく当たり前のことです。だからこそ、自分一人で考えるのではなく、先生たちのアドバイスはもちろん、保護者の方との話し合いや先輩たちの話を聞いたりして、自分にあった進路選択をしてください。そして、その進路選択を最終的に決定するのは皆さん自身です。「最後は自分が責任をもって進路を選択し、決定する」ということを決して忘れることなく、日々の努力を重ねることで、希望する進路を実現させてください。

保護者の皆様にお願ひがあります。進路は決して他の生徒と比較するものではありません。お子様の適性や性格などを的確に把握し、納得できるように助言をしていただければと思います。お子様のことを一番よく知っているのは保護者の皆様です。「お子様との対話の時間を大切にする」「高等学校などへの進学を考えているお子様には、合格できる学校ではなく、3年間継続して学び続けられる学校を考える」「進路に関する資料や情報を可能な限り収集し、それらを参考にする」という三点を特に意識しながら、学校と連携を図って進路について一緒に考えていけることが一番です。何かご質問や分からないことは担任や学年の教員などに遠慮なくご相談いただければと思います。ご協力、よろしくお願ひいたします。

第1回目の進路説明会やこの「進路の手引き」が少しでもみんなのやる気を高め、「進路について真剣に考えよう」、「勉強を頑張ろう」と前向きな気持ちになれるきっかけになると嬉しいです。受験は個人での努力が大切ですが「団体戦」でもあります。みんなで励まし合い、受験を乗り越えていきましょう。

【2】進路を選択するにあたって

1 進路選択にあたっての心構え

- (1) 進路の多様化が進んでいる。そのため、より自分の将来を見通して、その道筋として卒業後の進路を考える。
- (2) 自分をよく知る。(学力、興味、適性など)
- (3) 情報を収集する。(進路説明会、進路関係のお知らせ、高校説明会、授業公開、体験入学、高校案内、インターネットなど)
- (4) 中学校からの意見や情報を踏まえて、保護者と十分に相談する。
- (5) 家庭でよく話し合い、自分の意志で決定する。

中学卒業後の進路は、長い人生の中の一過程であって、最終的な目標ではありません。それぞれの夢・希望・目標を叶えるためには、どのような進路を選択すればよいかについて考えることが大切です。

2 生活態度の確立をはかる

- (1) 正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。
- (2) 服装・頭髪など、身だしなみをきちんとする。
- (3) 礼儀正しい態度を身に付けると共に、言葉遣いにも気を付ける。
- (4) 係や当番の仕事は責任をもって行う。
- (5) 勉強だけでなく、学校生活すべてに最善を尽くす。
- (6) 周囲の人に対する思いやりと感謝の気持ちをもつ。

生活態度の乱れは心の乱れとも考えられます。心の乱れや油断があると、これからの日々を充実したものとするのが難しくなることもあります。これからの生活の質をいかに向上させるかが、もてる力を最大限に発揮させる鍵になります。

3 学習習慣を身に付ける

- (1) 毎日の授業を大切にすること。(学校の授業に集中して取り組むことも受験勉強の一つです)
- (2) 家庭学習を計画的に行う。(授業の予習・復習、1・2年の学習内容の総復習)
- (3) 課題等の提出物の期限をきちんと守る。

「受験勉強」だからといって、今すぐに肩肘を張る必要はありません。まずは、毎日の授業を大切にすることから始めましょう。また、学校の定期考査や外部の模試は結果も大切ですが、自分の学習成果を知り、弱点の克服に取り組むことがもっと大切です。そして、同じ問題や似たような問題が出題されたときに二度と間違えないことが大切です。入学試験は中学校3年間の学習内容から出題されます。1・2年生の学習内容の復習もしっかりとやっておかなければなりません。

自身の将来のことについてしっかりと考えていきましょう。そして、興味のある高校の学校説明会などに積極的に参加をして、自分の進路を主体的に切り拓いていきましょう!!!

【3】進路決定までの主な予定

月	主な行事	進路行事	内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査 (国・数・英)4/21, 23 ・保護者会 (4/24) 		学習計画を立てる方法の健闘 <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、学校の授業に集中して取り組む。 ・けじめのある生活を送る。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査(英)5/1 ・生徒総会(5/1) ・運動会(5/30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回進路希望調査 	進路の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・高校入試の仕組みについて理解する。 ・学校説明会、文化祭等を見学してみる。 ・学校の特色を調べる。 ・自分にあった進路を考える。 ・志望校のホームページをチェックする。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査 (6/17～6/19) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回進路説明会 (6/9) ・第1回確認テスト (6/23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの勉強 ・今までの復習を行う最後のチャンス!!! ・3年の1学期に学んだことも忘れずに復習しておく!!! ・勉強の息抜きも含めて、高校見学に行っておく。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の先生の話聞く会 (7/1) ・終業式 (7/17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回進路希望調査 ・第1回三者面談 (7/17～) 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行(9/7～9) ・生徒会役員選挙(9/11) ・中間考査 (9/24・25) 		進路の選択、決定 <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を見つめ直す。 ・保護者や先生とよく話し合う。 ・目標に向かって努力する。 ・自分の進路について、自分で責任をもつよう意識づける。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽祭(10/28) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回確認テスト(10/8) ・第2回進路説明会 (10/14) ・第3回進路希望調査 	入試に向けた学習 <ul style="list-style-type: none"> ・実力を養成するために、練習問題の積み重ねと弱点の補強をする。 ・志望校の出題傾向を研究する。 ・3年間の学習の総仕上げと再確認。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査 (11/16～18) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回三者面談 (11/5～11) ・第3回確認テスト(11/19) ・スピーキングテスト(本調査)(11/22) ・第4回進路希望調査 (最終) 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接の受け方、出願の心得を学ぶ。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・終業式 (12/25) 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導開始 ・第3回進路面談 (12/3～10) ・私立高校入試相談 (12/15) ・スピーキングテスト(予備日)(12/13) 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>9月以降は、月に1回は模擬試験を受験して、学力の伸び具合を確認することが大切です!!!</p> </div>
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 (1/8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他県私立高校一般入試 ・都内私立高校推薦 ・私立高校推薦(1月中旬) ・都立高校推薦(1/26・27) 	受験期 <ul style="list-style-type: none"> ・入試直前の学習方法を考える。 ・自己PRカードの作成(12月から始める) <p>(今まで積み重ねてきた活動内容、資格、部活動、総合学習等の取り組み、将来の希望・目的意識などをまとめる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調を整え、生活のリズムを整える。 ・手続きの日程、手順の確認。 卒業に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活を振り返る。 ・お世話になった方々へのお礼。

【4】中学校卒業後の主な進路

高等学校	全日制	○普通科 … ●一般教育(現在の学校生活と似ている)。 ●都立高校には単位制・コース制などがある。 ○専門学科 … ●農業・工科(工業)・商業(ビジネス)・産業・家庭・体育など。 ○総合学科 … ●共通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や進路希望に応じて科目を選択。
	定時制	○普通科 … ●全日制と併設。 ●昼夜間定時制(砂川・八王子拓真など)。 ○専門学科 … ●商業科・工科(工業)など。
	通信制 ※1	○在宅 … ●基本は自宅学習を行い、レポートなどの提出を行う。 直接学校に通う回数は学校によって様々である。 ○サポート校 … ●通信制高校の学習を支援する教育機関。
高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門技術者(工業関連の専門科)を育成するための学校。(5年制) 例)機械工学科・電子工学科・航空宇宙工学コース・AIスマート工学コースなど ・短期大学卒業に準ずる資格。 ・大学3年生に編入資格あり。 例) 都内には、国立東京工業高専(八王子市)、都立産業技術高専(品川区、荒川区)私立サレジオ工業高等専門学校(町田市)がある。 	
専修学校	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的かつ実践的な知識や技能を短期間で身に付ける教育機関。 例)美容、理容、洋裁、和裁、調理などがある。 ・3年制の高等課程では大学受験も可能。 	
職業能力開発センター校	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間または半年間で職業実務を習得する。 	
就職	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク(職業安定所)を通して入社手続きをする。 ・縁故関係を利用して就職したり、家業を手伝い、自営業を習得する。 	

※1 現在、高校生の約10人に1人が通信制高校に通っています。IT技術の進化や多様な学びの必要性が高まっている現在、通信制高校に積極的に進学を希望する生徒が増えています。

→ 以下のURLは文部科学省通信制高等学校情報発信サイトになります。通信制高校の受験を考えている場合は、一度、ご確認ください。

【URL】 <https://www.mext.go.jp/tsushinseikoukou/>

(注1) 通信制高校や専修学校については、学校によって大きな違いがあります。各自でよく調べておくことが大切です。

(注2) 就職に関して何かありましたら、担当の倭までご連絡ください。

(注3) どの進路を選択しようと、まずは、希望する進路先に直接訪問するなどし、自分の目で雰囲気などを感じることが大事です。そして、早め早めに行動をおこし、11月や12月になって慌てて行動しないようにしてください。

【5】卒業生の主な進学先(下線が引かれている高校は進学者数が5人以上の高校)※1

【都立高校】(126名が進学)

《全日制普通科》

井草・大泉桜・清瀬・国立・久留米西・小金井北・国分寺・小平・小平西・小平南・狛江
鷺宮・石神井・昭和・上水・立川・田無・戸山・西・東久留米総合・東村山・東村山西
東大和・東大和南・日野・府中・保谷・武蔵野北・武蔵丘

《全日制(普通科以外)》

青梅総合(総合学科)・大島海洋国際(水産科)・小平(外国語)・杉並総合(総合学科)
総合芸術(音楽科)・第五商業(ビジネス科)・立川(創造理数科)・田無工科(建築科)
多摩科学技術(科学技術科)・中野工科(食品サイエンス科)・八王子桑志(産業科)
東久留米総合(総合学科)・農芸(緑地環境科)・瑞穂農芸(食品科)

《定時制》

稔ヶ丘(チャレンジスクール)・立川緑(チャレンジスクール)・東久留米総合

【都内私立高校】(90名が進学)

岩倉・英明フロンティア・開成・錦城・京華女子・啓明学園・工学院大学附属・駒場学園
昭和第一学園・聖徳学園・昭和鉄道・城北・白梅学園・大成・拓殖大学第一・立川女子
中央大学杉並・中央大学附属・東亜学園・東海大学菅生・東京純心女子・東京文華
日本体育大学桜華・日本大学第二・八王子・八王子実践・文化学園大学杉並・堀越
武蔵野大学・明星学園・明治学院東村山・明法・明星・早稲田実業

【都外私立高校】(7名が進学)

埼玉栄(埼玉)・狭山ヶ丘(埼玉)・西武文理(埼玉)・土浦日大(茨城)・星野(埼玉)
山村学園(埼玉)

【その他(通信制・高等専修学校等)】(18名が進学)

飛鳥未来きずな・N高・鹿島学園・クラーク記念国際・第一学院・大智学園
野田鎌田学園高等専修学校・日々輝学園・未来・明聖・北海道芸術高校 他

※1 令和7年度卒業生の進学先です。
令和7年度卒業生数は246名です。

志望校合格に向けて、日々の
学習に真剣に励みましょう!!!



【6】 評定について

1 評定について

評定は5段階の絶対評価です。多くの高校では2学期の評定を調査書点としますが、2学期に出される評定は、3年1学期と2学期の成績を合わせた評定を出すことになっています。評定の付け方は各教科によって異なりますが、次の(1)～(3)などを評定を付けるための資料として使用することが多いです。

(1) テストの成績

- 1学期の定期考査(期末考査)
- 2学期の定期考査(中間考査・期末考査)
- 授業内に行う小テスト など

(2) 平常点

- 授業に意欲的に参加しているか。
- 意欲的に発言をしているか。
- ノートをきちんととっているか。
- 私語や居眠りなどをしていないか。
- 忘れ物はないか。
- 提出物を期限までにきちんと提出しているか。 など

(3) 実技点

実技教科(音楽、美術、保健体育、技術・家庭)では特に重視されます。作品などの仕上がり具合の他に、次のような点も加算されます。

- 真剣に取り組んでいるか。
- 教材や道具類、体育着などの忘れ物はないか。
- 作品が期限までに完成させて提出できたか。 など

2 調査書点(内申点)について

(1) 私立高校

- 素内申(9教科の評定を合計した数。満点は45点。)
→ 高校によっては、1学期の成績を扱う場合もあります。

(2) 都立高校

- 換算内申(受検教科の評定はそのまま合計し、受検教科以外の評定は合計を2倍する)

① 5教科受検(国語・数学・英語・社会・理科)の場合：満点は65点

例) 以下の場合の換算内申

→ 「5教科の合計=20」+「技能教科の合計=30(15×2)」= 換算内申50

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
4	3	5	5	3	5	3	4	3

② 3教科受検(国語・数学・英語)の場合：満点は75点 ※ 体育や芸術に関する学科は3教科受検

(国語・数学・英語以外の評定の合計の数を2倍にする)

例) 以下の場合の換算内申

→ 「3教科の合計=12」+「社会・理科・技能教科の合計=46(23×2)」= 換算内申58

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
4	3	5	5	3	5	3	4	3

【7】都立高校の入試について

1 入試日程

(1) 推薦入試

出願期間	令和8年12月18日(金) ～ 令和9年1月18日(月)午後5時
試験日	令和9年1月26日(火)・27日(水)
合格発表日	令和9年2月2日(火)

(注1)分割募集は昼夜間定時制の学校において、定員を前期と後期に分割し、2回に分けて行う募集のことです。

対象校：一橋・浅草・荻窪・八王子拓真・砂川

(注2)通信制高校の後期選抜は4月上旬に実施されます。詳細は後日に発表されます。

対象校：一橋・新宿山吹・砂川

(2) 第一次募集・分割前期募集(注1)

出願期間	令和8年12月18日(金) ～ 令和9年2月4日(木)午後5時
試験日	令和9年2月21日(日)
合格発表日	令和9年3月1日(月)

(3) 第二次募集・分割後期募集(注1)

出願日	令和9年3月4日(木)
試験日	令和9年3月9日(火)
合格発表日	令和9年3月12日(金)

(4) 通信制課程選抜の試験日

前期選抜	令和9年2月22日(月)
合格発表日	令和9年3月1日(月)

(5) 産業技術高等専門学校の試験日

推薦入試	令和9年1月27日(水)
第一次募集	令和9年2月15日(月)

2 入試制度

都立高校の入学選抜は推薦入試(学力検査を実施しない選抜)と一般入試(学力検査に基づく選抜)に分けられます。なお、一般入試において実施される分割前期募集と分割後期募集は、令和8年度入試より、昼夜間定時制の学校においてのみの実施になりました。また、令和8年度入試より、通信制高校の選抜を前期選抜と後期選抜の2回に分けて実施することになりました。

3 推薦入試(原則、都内在住者のみ受検が可)

(1) 推薦入試について

- ① 志望する都立高校1校に出願し、志願変更はできません。
- ② 合否は、基本的には、調査書(中学校の成績)、面接、作文または小論文、集団討論の成績で決定されます。基本的に調査書の点数は全体の半分以上を占める場合が多いです。実技検査を実施する高校については、その結果も含まれます。なお、個人面接に当たっては、自己PRカードが面接資料として活用されます。
- ③ 推薦枠の原則は、普通科は20%以内、工科・農業科・商業系学科・水産科・科学技術科は40%以内、その他の学科などは定員の30%以内です。
- ④ 卓越した能力をもつ生徒を対象とした文化・スポーツ等特別推薦も行われます。

(2) 応募資格

- ① 志望する都立高校が第1志望であること。合格したら入学することが前提。
※私立学校のように、「高校が提示する評定の基準を満たしていないと受検ができない」という決まりはない。
- ② 在学する中学校長の推薦を受けた生徒。
- ③ 保護者と同居し、12月末日現在、都内に住所を有し、入学後も都内から通学することが確実な生徒。

(3) 留意点

- ① 推薦入試で合格した場合、入学辞退はできません。また、合格者は他の都立高校や私立高校を受験できません。
- ② 推薦入試は毎年受検者が多く、倍率も高い傾向が続いています(昨年度は2.19倍)。また、応募倍率が3~4倍を超える高校もたくさんあります。したがって、都立高校の推薦入試は合格者よりも不合格者の方が多く、合格するのが一般的に難しいと言えます。あくまでも一般入試で合格するつもりで推薦入試の受検の準備をするようにしましょう。

【応募倍率の高かった学校(一部)】

例) 新宿(普通科):5.78倍 / 東大和南(普通科):4.73倍 / 鷺宮(普通科):4.29倍
立川(普通科):3.00倍 / 東大和(普通科):2.82倍 / 石神井(普通科):2.69倍
東久留米総合(総合学科):2.71倍 / 農業(食物科):3.20倍 など

4 一般入試(原則、都内在住者のみ受検が可)

(1) 第一次募集について

- ① 志望する都立高校1校に出願し、1回だけ志願変更ができます。
- ② 学力検査は、原則5教科(国・数・英・社・理)で実施されます。ただし、芸術及び体育に関する学科については、3教科(国・数・英)となります。また、面接や実技検査を実施する高校もあります。
注) 以下の10校は国・数・英の学力検査問題を自校で作成します。社会と理科は共通問題です。なお、国際高校は英語の問題のみ、自校で作成します。
【学校名】日比谷 西 国立 立川 八王子東 戸山 青山 新宿 墨田川 国分寺
- ③ 学力検査と調査書の比重は、基本的に「学力検査:調査書=7:3」です。ただし、芸術及び体育に関する学科は「学力検査:調査書=6:4」です。
- ④ 調査書点は実技4教科の評定の合計点を2倍する。※ P6 参照
→ これを「換算内申」といい、オール5の場合、換算内申は65になります。
- ⑤ 合否の結果は、学力検査の得点(700点満点)、調査書点(300点満点)、英語スピーキングテスト(20点満点)の点数の合計である1020点満点の総合得点で判定します。また、面接、小論文又は作文及び実技検査を実施する高校はそれらの点数が加算されます。

[点数化の方法]総合得点 1020点

学力検査点700点+調査書点300点+英語スピーキングテスト20点 = 1020点満点
※11/22(日)実施予定

学力検査点 1000点満点 → 5教科の合計得点(100点満点×5教科)に1.4を掛ける。

例) 各教科の点数が55点の場合 → $(55 \times 5) \times 1.4 = 385$

調査書点 300点満点 → (換算内申×300)÷65で点数を出す。

例)

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
4	3	5	5	3	5	3	4	3

実技4教科の合計を2倍すると、 $(5+3+4+3) \times 2 = 30$ 点(全教科5の場合は40点)になる。これに実技教科以外の5教科(国・数・英・社・理)の評定の合計は20であるので、この場合の換算内申は50になります。そのため、調査書点は、 $(50 \text{点} \times 300) \div 65 = 230$ 点(小数点以下は切り捨て)となります。

(2) 東京都中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)について

- ① 令和5年度入試から都立高校の合否を決める際にスピーキングテスト(ESAT-J)の評価を調査書に記載し、志願先の都立高校に提出することになりました。「都立高校の合否に影響する」ということになります。
- ② 都内在住の中学生は、基本的には受験をすることになっています。
- ③ 実施日

ア 本試験 令和8年11月22日(日) イ 予備日 令和8年12月13日(日)

- ④ 入試活用
第一次募集のみ。エンカレッジスクール、チャレンジスクール、英語学力検査を実施しない学校等は対象外。
- ⑤ 調査書への記載
調査書の記載欄にスピーキングテスト結果(A~F:6段階評価)の記号を記入する。評価の点数化は以下のとおりです。

スピーキングテスト結果(評価)※1	A	B	C	D	E	F
都立高等学校入試での活用(点数化)	20点	16点	12点	8点	4点	0点

※ 各評価を得るために必要な点数 → 昨年度の平均点は74.9点(「B」評価をとっている人が多い)

A = 80~100点 / B = 65~79点 / C = 50~64点 / D = 35~49点 / E = 1~34点
F = 0点

- ⑥ スピーキングテストの重要度
1020点満点中の20点ということもあり、軽視しがちになりますが、油断は禁物です。なぜなら、この20点は調査書点を300点換算した際の5教科(国・数・英・社・理)の各教科が占める点(23.1点)に匹敵します。スピーキングテストは合否の鍵を握っていると言っても過言ではありません。
- ⑦ 平均点
 - ・令和4年度=60.5点
 - ・令和5年度=65.2点
 - ・令和6年度=68.3点
 - ・令和7年度=74.9点

(3) 都立高等学校入試の変更点(令和5年度入試から開始)

- ① インターネット出願に変更 ② 入学願書の性別欄の廃止
- ③ 調査書及び調査書記載成績通知書の「出欠の記録」欄の削除
- ④ 志願者が作成する自己PRカード、自己申告書、志願申告書(チャレンジスクール用)について、手書きに加え電子ファイルへの入力及び印刷により作成して提出することが可能
- ⑤ 男女別定員制の撤廃(令和6年度入試から)
→ これまで全日制普通科(単位制及びコースを除く)で男女別の定員が設定されていたが、令和6年度入試からはすべての高校で男女合同選抜が実施されました。
- ⑥ 入学願書に使用する写真は10月1日(木)以降のものを使用。(変更の可能性大)

(4) 多様なタイプの学校の紹介

都立高校には多様なタイプの高校があり、ここ数年は、以下のタイプの都立高校の人気が高く、倍率も高い状況が続いています。

- ① チャレンジスクール：主に小・中学校で不登校の経験があったりし、これまで能力や適性を十分に生かすきれなかった生徒が目標に向けてチャレンジする高校。

〈特色〉・面接試験や作文の試験などで合否を判定する。学力検査を実施せず、調査書点も合否に関係ない。

・基礎と基本を重視した学習を行うとともに、いろいろな専門科目が設置されている。

〈学校一覧〉稔ヶ丘(中野区)、桐ヶ丘(北区)、世田谷泉(世田谷区)、六本木(港区)、大江戸(江東区)
小台橋(足立区)、立川緑(立川市)※1

※1 令和7年度に新たに開校されました。

- ② エンカレッジスクール：小・中学校で十分に能力が発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張り
を励まし応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充
実させる全日制の高校。

〈特色〉・調査書点、面接試験や作文の試験などで合否を判定する。学力検査は実施しない。

・きめ細かい指導を行うために、2人担任制を導入し、少人数指導や習熟度別授業を行っている。

・1年次は30分授業であり、午前中は座学、午後は体験学習及び選択授業が中心であり、集中力が持続できるようにしている。

〈学校一覧〉秋留台(あきる野市)、東村山(東村山市)、中野工科(中野区)、練馬工科(練馬)、
足立東(足立区)、蒲田(大田区)

- ③ 昼夜間定時制：自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、Ⅰ部(午前部)・Ⅱ部(午後部)・Ⅲ部
(夜間部)の3つの部の中から選んで入学する。

〈特色〉・チャレンジスクールやエンカレッジスクールと異なり、学力検査がある。

・Ⅰ部(午前部)、Ⅱ部(午後部)、Ⅲ部(夜間部)の中から自分の所属する部で、1日4時間ずつ4年間
をかけて学ぶことが基本であるが、他の部と合わせて1日に6時限の授業を受けられるため、3年で
卒業することも可能。

・基礎と基本を重視し、習熟度別授業や少人数指導などを取り入れている。

・学校外での活動が単位として認定されることがある。

〈学校一覧〉砂川(立川市)、八王子拓真(八王子市)、荻窪(杉並区)、新宿山吹(新宿)、一橋(千代田区)
浅草(台東区)

(5) 昨年度の都立高入試の結果を受けて

- ① 推薦入試においては、女子の方が高い内申をもっている傾向があり、内申の比重が高い推薦入試では、女子が有利な状況になっていると考えられます。いずれにせよ、推薦入試では調査書点は非常に重要なものなので、日々の授業をしっかりと受け、定期考査の勉強にしっかりと励む必要があるでしょう。
- ② 東京都の就学支援金の所得制限撤廃により、私立高校を第1志望とする生徒が増え、都立入試では推薦入試や一般入試の倍率が下がりました。しかし、人気校や上位校の都立高校入試の倍率は高い状況が続いており、個々の学校でみると不合格者が多く出ている学校もありますので、決して油断することはできません。
- ③ 以下の URL は「#だから都立高」のサイトになります。都立高校について詳しく知ることができ、東京都教育委員会のホームページよりご覧いただくことができます。ぜひ、ご覧ください。

【URL】<https://www.toritsuko.metro.tokyo.lg.jp/>

【8】私立高校の入試について

1 入試制度

都内私立高校においては、次のような制度で区分している学校が多いです。

(埼玉県内の私立高校では別の制度があるほか、日程も早めなので注意が必要です。)

	推 薦	併願優遇	第1志望優遇	一般受験
概要	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの学校で導入。 合格した場合、必ず入学することが前提。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入している学校が多い。 第1志望(主に都立高校)が不合格だった場合、入学することが条件。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試の際、優遇措置を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に、当日のテストの点数のみで合否が決まる。
他校との併願	<ul style="list-style-type: none"> できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 都立高校1校のみという場合が多い。 他の私立高校との併願を認めている学校もある。 	<ul style="list-style-type: none"> できるが、合格した場合は、必ず入学することが前提。 	<ul style="list-style-type: none"> 何校でも受験できる。(制約はない)
試験	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には適性検査、面接試験がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試日に学力試験を受験する。 面接試験を実施している学校もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試日に学力試験を受験する。 面接試験を実施している学校もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試日に学力試験を受験する。
試験日	1月22日が多い	2月10日・11日・12日 が多い		
合否の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 推薦基準をクリアし、事前相談で受験を認められた場合は、合格の可能性が高い。※1 	<ul style="list-style-type: none"> 併願優遇の基準をクリアしていれば、合格の可能性は高い。 学力試験や面接の結果が極端に悪い場合は、不合格となることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1志望基準をクリアしていると、入試点に加点(+20点など)されるケースが多い。 入試得点次第で合否が判定される。 	<ul style="list-style-type: none"> 当日の入試得点が大きな比重をもつ。
備考	<ul style="list-style-type: none"> いずれの形態も、高校から提示された基準を満たしていなければならない。 基本的には中学側と高校側の教員による「入試相談」が必要。 			

※1 一部の学校(大学付属高校が多い)では、推薦基準が願するための最低条件という意味になっていることがほとんどです。基準を満たしていても、合格の可能性が高くなるわけではなく、当日の筆記試験などで合格するための点数をしっかりとらないといけません。

例) 中央大学杉並高校の推薦基準(昨年度)

①9科37 ②9科に2は不可 ③各学年の欠席日数10日以内、3年次の遅刻・早退計10回以内

→ 上記の①～③の条件を満たしていれば推薦で受験できるが、合否は当日の入試の得点で左右されます。

(注1) 推薦、併願優遇、第一志望優遇で私立高校の受験を希望する場合は、原則、受験する私立高校で個別相談等を受ける必要があります。また、推薦、併願優遇、第一志望優遇で私立高校を受験できるかは、基本的には中学校の教員と私立学校の間で実施される入試相談(12月15日以降)で決定します。原則、入試相談の前に、受験する予定である私立高校との個別相談を済ませておいてください。

2 推薦入試

(1) 受験条件

その高校が第1志望である。つまり「合格したら必ずその高校に入学する」という希望のある生徒のみ受験できます。推薦入試で不合格になっても、同じ高校を一般受験することができます。

(2) 試験科目

適性検査(国・数・英の場合が多いが、社会と理科も試験科目としている高校もある)。その他に面接、作文の試験を実施する高校もある。

(3) 試験日

令和9年1月22日頃(埼玉県は例年1月中旬)。

(4) 推薦基準(内申):それぞれの高校で推薦の基準を定めている。

(例) 都内のある私立高校の推薦基準(昨年度)

<特進コース> 3教科(国・数・英)「14」かつ5教科(国・数・英・社・理)「23」

<進学コース> 3教科「12」かつ5教科「20」

(5) 推薦基準(評定以外)

それぞれの学校によって大きく異なるので、説明会などで確認をしておく必要があります。内申の基準を満たしていても、評定に「1」や「2」があったり、欠席・遅刻・早退などが多い場合は、推薦や併願優遇での受験ができない場合もあります。

例)・いずれのコースも、9教科で「1」を含む場合は、原則的に不可

・3年次の欠席10日以内 / ・3年次の欠席・遅刻各6日以内、2年次各12日以内

・3年間の欠席20日以内 など

3 一般入試

(1) 受験条件

誰でも希望する高校を受験できます。

(2) 試験科目

基本的には国語・数学・英語の3教科の場合が多い。面接を実施する高校もあります。

(3) 試験日

令和9年2月10日以降(埼玉県は1月下旬)

(4) 併願優遇制度

都立高校や別の私立高校を第一志望にしているが、第一志望の学校が不合格のときは必ずその高校に入学したいという希望がある生徒に適用されます。この場合の基準は、推薦入試より高めに設定されることがほとんどです。

(5) 第1志望優遇制度

その高校が第1志望の場合、一般の受験者よりも優遇されます。(総合得点に20点加算するなど)

(注1) 埼玉県の私立高校の入試日程や選抜方法は東京都と異なりますので、事前によく調べ、担任と必ず相談をするようにしてください。

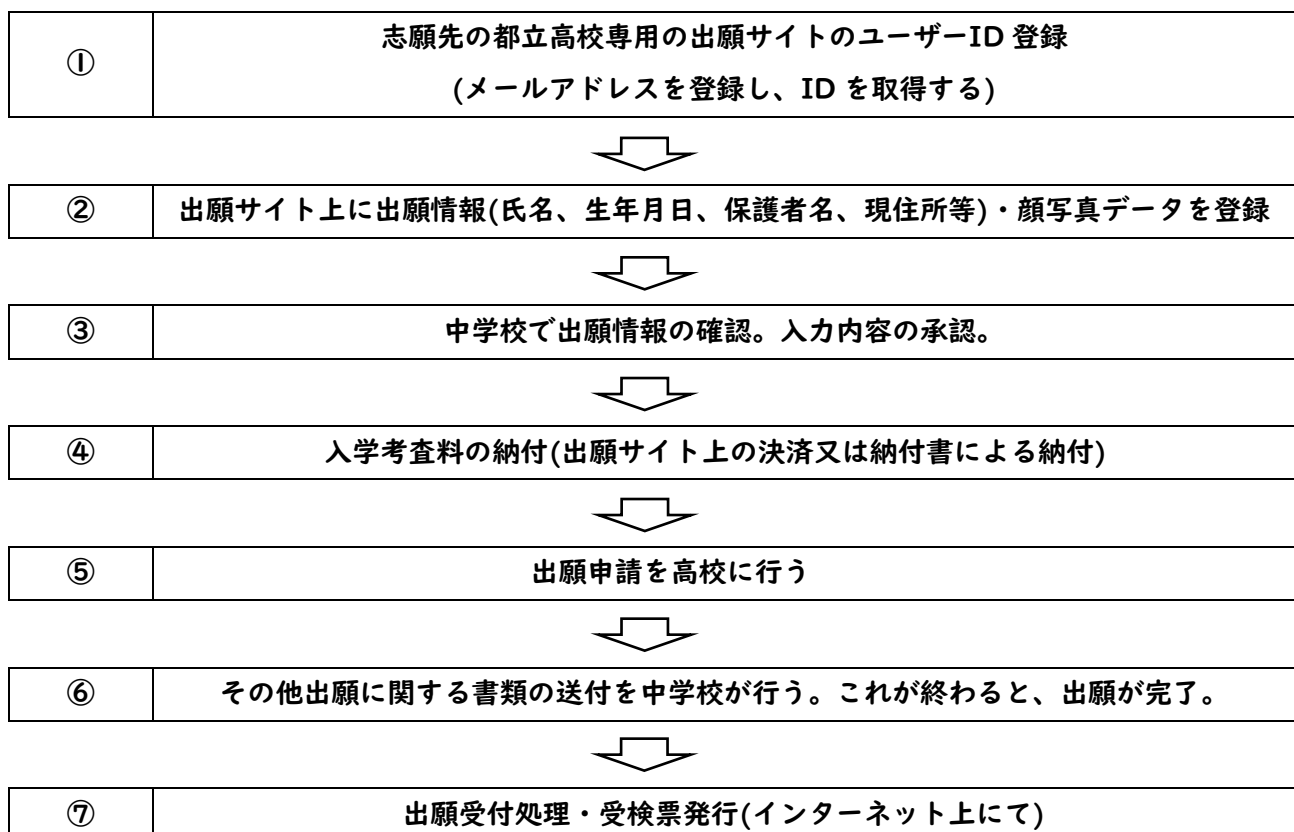
(注2) 私立高校は原則、どこでも受験をすることができます。一般的に、公立高校よりも教育方針や教育内容に様々な特色があると言われています。また、校則も一般的に公立高校より厳しい場合があります。学校説明会などで、学校の雰囲気などを知ることが大切

4 留意点

- (1) 私立高校の入試では推薦や併願優遇の基準に達していない場合でも、「加点制度」といって、英検・漢検・数検などの検定、部活動での成績、生徒会活動での実績などで評定を上げて受験を認めてくれる場合があります。しかし、高校によって加点となる項目は様々であり、確認が必要となります。
- (2) 推薦、併願優遇、第一志望優遇などの制度を利用して受験する場合、12月中旬頃に中学校の教員がそれぞれの高校に出向いて事前に合格の可能性について相談する入試相談会があります。この入試相談で高校の承認を受けないと受験をすることができなくなります。
- (3) 私立高校を推薦、併願優遇、第一志望優遇などの制度を利用して受験する場合、遅くとも12月の下旬までには受験する高校を決めなければなりません。当然、それ以前に志望する高校の学校見学をし、個別相談を受けておく必要があります。
- (4) 私立高校は学校によって校風が大きく異なります。入学後に後悔しないようにするためにも、内申や模試の偏差値だけで判断することなく、学校説明会などにしっかりと参加し、学校の特色をしっかりと把握しておく必要があります。
- (5) 夏休み以降、私立高校の学校説明会などに行く際は、通知表のコピーや模試の結果を持参してください。高校の先生方は、通知表などの資料を参考にして話をしてくれます。また、欠席、早退、遅刻の回数が推薦の基準や併願優遇の基準を上回っていないかの確認をしておいてください。
- (6) 学校説明会や個別相談会は事前予約制の場合が多く、人気校ではなかなか予約がとれない事態が起きています。ホームページから予約をすることが多いので、希望する高校のホームページを日頃からチェックしておいてください。

【9】都立高校インターネット出願について

インターネット出願の流れ(詳細については、第2回進路説明会でお知らせいたします。)



【10】推薦について

小平第三中学校の学校推薦について

【1 学校推薦とは】

- (1) 「学校推薦」とは、中学校と高校(高等専門学校や通信制高校を含む)の信頼関係に基づいて成り立つ制度で、校長先生が責任をもって高校に推薦をするものである。
- (2) 都立高等学校及び私立高等学校の「推薦入試」に際して、校長先生が生徒が受験(検)する高校に対して、小平第三中学校の生徒を責任をもって推薦すること。
- (3) 「学校推薦」を希望する場合は、下記の推薦基準を満たした上、校内推薦委員会において検討し、全教員の承認を得て、最後に校長先生が推薦を決定する。

【2 小平第三中学校の学校推薦を受けるために】

- (1) 下記の条件を満たす場合に推薦が可能となる。

- 1 志望の動機が明確であり、合格したら必ず入学すること。
- 2 志望校(主に私立高等学校)の推薦基準を満たしていること。
- 3 日常生活の生活態度が良好な者。
 - ・本校のきまりを守り、基本的な生活習慣がしっかりと身に付いていること。
→ 身だしなみ(化粧など)、ピアス、靴のかかとつぶし、朝読書を含めた出欠席の状況など
 - ・法に触れる行為がない者
→ 飲酒、喫煙、万引き(窃盗)、対人暴力、器物破損、いじめなど
- 4 学級活動、学校行事、生徒会委員会活動、奉仕活動、部活動などに責任をもって取り組み、協力してきた者。
- 5 学習意欲があり、真剣に授業に取り組み、授業を妨げていない者。
- 6 推薦者として決定した後も、上記の1～5の条件を必ず守り、学校生活を過ごすことができる者。

- (2) ただ一度の過失を基にして、推薦するかどうかを決めることはない。しかし、何度も注意を受け、改善が見られない場合は「学校推薦」を与えることができない場合がある。
- (3) 「学校推薦」を受けることができない場合でも、私立高等学校の「併願優遇制度」を利用することはできる。「推薦」と名前がつく入学試験において小平三中から推薦をされて受検(験)することができない。

【11】奨学金制度について

中学校までと違い、高校に通学するにはかなりの学費がかかります。経済的に厳しいという場合、奨学金制度を利用することができます。各都道府県や民間団体による奨学金はほとんど無利息で、社会に出てから返還すればよいという制度です。いくつか種類がありますが、2つ以上兼ねることができない場合もあります。

私立高校の授業料の実質無償化に伴い、私立高校を第一志望とする受験生が増えています。しかし、あくまでも授業料の援助であり、私立高校などでは他にも入学金や修学旅行、部活動費などをはじめ、様々なところで費用がかかります。以下にその他の奨学金制度を紹介いたします。昨年度は募集を行ったが、今年度は募集を取りやめることもありますので、ご了承ください。以下の種類以外の奨学金制度などの案内があったり、詳しいことが分かったりした場合は、別途お知らせいたします。

種 類	申込資格	奨学金	返還期間	申込
東京都育英資金	<ul style="list-style-type: none"> ・都内在住。 ・勉学の意欲があること。 ・連帯保証人を2人立てられることなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立 18,000円 ・私 立 35,000円 	概ね 11年～13年	7月16日(木) ※学校が申し込む
交通遺児育英会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が交通事故で死亡又は後遺症で働けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月額 2万円、3万円、4万円から選択 ・入学一時金 20万円、40万円、60万円から選択 	20年以内	令和9年1月末まで
あしなが育英会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が病気、災害、自死などで死亡、あるいは1～5級の障がい認定を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月額3万円(給付) ・私立高校入学一時金 → 30万円 	20年以内	9月1日開始予定。
私立高等学校等 就学支援金 (入学支度金貸付事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・都内在住。 ・入学支度金貸付制度がある高校に入学する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に必要な費用のうち、25万円を無利息で高校が貸す。(入学金の他、施設設備費なども対象) 	高校が指定する方法で在学期間中に返済	各高校に確認、

(注1) 希望される方や奨学金の利用を考えている方は、担当の倭までご連絡ください。

(注2) あくまで、現在の情報です。詳しい内容については、ホームページでご確認ください。

(注3) 小平市の奨学金制度もあります。案内が学校に来ましたら、お知らせいたします。

【12】 高校訪問について

1 事前に連絡をすること

見学会や説明会に参加する場合には、基本的には事前にホームページや電話で確認をとるようにしてください。インターネットで予約する学校も多くなっています。予約などをしないで説明会に行っても参加をすることができないかもしれません。なお、事前予約をしておきながら、やむを得ない事情により行けなくなった場合には、礼儀として必ず高校に欠席の連絡をしましょう。また、「申し込みは中学校単位で」と指定されている場合は、早めに申し出てください。

2 中学生らしい服装(＝標準服)で行くこと

「受験生」として訪問させていただくので、失礼のないようにしましょう。中学生らしい服装で訪問し、礼儀正しい態度と言葉遣いに加え、きちんとした挨拶を心がけましょう。自転車での訪問も基本的にはできません。

3 その他

(1) 学校見学の記録をしよう

見学会、説明会はもちろん、個別に訪問した際にも必ずメモを取るようにしましょう。交通アクセス(3年間通えるか)、学校の様子などを記録して、あとで比較できるようにしましょう。

(2) 可能な限り、保護者同伴で訪問すること

よりよい志望校選びのために、保護者の方々にも自分の意思と進学したい高校の様子を十分に理解しておいてもらう必要があります。特に学費面や卒業生の進路など保護者の方ならではの複数の観点でチェックするとよいでしょう。また、私立高校では推薦や併願優遇での受験にあたり、個別相談を必須としている学校もあります。基本的には個別相談の際には保護者も一緒に参加をしてもらいましょう。

(3) 学校説明会で確認しておくこと

- ① 通勤時間帯の電車の乗り継ぎや混雑具合 ② 部活動や学校行事の内容
- ③ 生徒の雰囲気、先生との関係 ④ 進路指導方針と卒業後の進路、大学合格・就職実績など
- ⑤ 習熟度別授業や、朝・放課後、長期休業中の補習などの実施状況
- ⑥ 授業以外の費用(諸経費、定期代など)

(4) 説明会の注意点

- ① 実力相応校、チャレンジ校、安全圏の3校を見学できるのが最良です。「現在の学力に合った高校」「成績が上がった場合の高校」、「成績が下がった場合の高校」の3パターンを想定して説明会に行けるのがベストです。偏差値や内申だけで受験校を決めるのではなく、「3年間楽しく通えそう」という視点を忘れずに受験校を決めていきましょう。
- ② 「夏休みになってからでいいや」ではなく、1学期の間から行けるようであれば行くようにしましょう。最近、高校説明会の予約はネット予約がほとんどです。例年、人気がある高校ではすぐに締め切りになってしまい、11月ギリギリに初めて志望校を訪問するケースが多くみられます。
- ③ 定期考査の点数が良いからといって、実際の入試で点数が取れるとは限りません。定期考査はあくまでも試験範囲が限られており、入試問題は範囲が非常に広いです。試験範囲が広い模擬試験を積極的に受けて、自身の実力を理解して志望校を考えていきましょう。なお、模擬試験の結果が出たら、担任の先生に模試の結果をもってくるようにしてください。

【13】保護者の方へのお願い

1 受験や進路選択を特別視せず、毎日の積み重ねと考えてください。

- (1) 規則正しい生活リズムをもたせてください。
- (2) 基本的な生活習慣(時間、あいさつ、礼儀、身だしなみなど)を大切に生活させてください。
- (3) 良い体調で毎日の生活を送らせてください。(食事、睡眠時間など)

2 進路についての十分な話し合いをお願いします。

- (1) 話し合いの機会を増やし、お互いの考えをよく理解し合っただけだと助かります。できれば、まずはお子様の話を聞いてあげてください。アドバイスはそれからです。
- (2) 学校からの連絡や情報を確実に聞いてください。

3 確実な情報の把握をしてください。

- (1) 進路決定までの流れ、日程、受験制度など、お子様と同じように保護者自身も知っておくことが大切です。
- (2) 学校説明会や見学会なども一度は同伴し、進学先のことも十分に把握してください。

4 三者面談に向けて

今後学校で予定されている面談は、7月、11月、12月の3回です。わずか20分程度の時間ですが進路決定に向けての情報を得て相談するだけでなく、お子様自身が自分の言葉で希望の進路や合格を目指す「決意」を表明し、急激に飛躍する機会でもあります。その大切な機会を有効に活用するためにも、家庭での話し合いを十分に行い、お子様と保護者の考えを一致させておいてください。また、面談で知りたいことを明確にしておくことも大切なことです。

5 書類の作成・提出について

進路に関する書類はお子様の人生に大きく影響するものでもあります。認め印は、「保護者として了解しています。」という意味を表しますので、必ず保護者の方がご覧になって間違いがないかを点検して下さるようお願いいたします。なお、公的な書類の認め印には朱肉を使って押印することになりますので、よろしくお願いいたします。(ゴム印(シャチハタ)は不可。)また、締め切り期限を必ず守って提出させるようにしてください。

6 写真撮影や受験の時など、頭髪・服装に十分に気を付けてあげてください。

受験写真は、だらしない格好で撮影したのではマイナスです。服装面でも清潔感が求められます。高校の見学や体験入学・願書をもらいに行くときや出願、受験に出かける時など、全ての場面で頭髪や服装に気を配るようにご指導ください。

最後に・・・

頑張れ 3 年生!!!

企画・制作

小平市立小平第三中学校 進路学習部

〒187-0011 東京都小平市鈴木町1丁目311番地

☎ 042-341-0575 FAX 042-341-0619